

2022年 アメリカ学会 第56回年次大会 プログラム

1. 開催日 2022年6月4日(土)・6月5日(日)
- ※ 今大会は中央大学の後援を得て開催されます。
 - ※ 今大会は対面で行う予定ですが、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の拡大状況によっては、オンラインに切り替えることもございます。
 - ※ プログラムの一部はウェビナーでも同時配信いたします(ただしウェビナー上での質問はできません)。ウェビナー情報は後日、参加登録者に配信されます。
 - ※ 会報に掲載されたプログラムから若干の修正があります。こちらが最新版です。修正箇所は赤字になっております。
- 参加登録は5月22日(日)までに、[こちらのページ](#)でお済ませください。

2. 会場 中央大学 多摩キャンパス 3号館・FOREST GATEWAY (F号館)
- | | | |
|---------|----------|-------------------------------------|
| 大会企画委員長 | 麻生 享志 | asoes アットマーク waseda.jp |
| 会場責任者 | 一政(野村)史織 | shio.11d アットマーク g.chuo-u.ac.jp |
| | 小田悠生 | yuki_oda アットマーク tamacc.chuo-u.ac.jp |

3. プログラム (報告要旨は別に「報告要旨集」に掲載されます。時間は全て日本標準時です)
- * タイトルの日英別は、発表言語によるものです。
 - * 今大会は対面開催の場合でも、分科会はオンラインで開催されます。各分科会の開催時間等は別にお知らせいたします。

第1日 2022年6月4日(土)

午前の部

自由論題報告 10:00 ~ 11:30 ※ 対面のみ

【 Session A アメリカの政治と冷戦 American Politics and the Cold War 】 3号館 3351

司会: 岡山裕 (慶応義塾大学)

討論者: 岡山裕、~~平田雅己(名古屋市立大学)~~

報告者:

李雨桐 (神戸大学・院)

「アメリカ政治における多州連合訴訟の政治的役割の拡大」

~~阿部碧 (一橋大学・院)~~

~~「燃えるわたしの痛み、それは誰の痛みなのか? ——冷戦構造下における焼身行為の感情史的読み解きの
—考察—」~~

【 Session B アメリカの文化 American Culture 】 3号館 3352

司会: 石原剛 (東京大学)

討論者: 齊藤弘平 (青山学院大学)

報告者:

黒沢真里子 (専修大学)

「計量テキスト分析を用いた葬儀雑誌 *The Casket* の研究——1870年代から90年代の掲載広告を中心に」

入江哲朗 (日本学術振興会特別研究員 PD)

「世紀転換期アメリカ思想史における蝮の形象——フランク・ノリスとウィリアム・ジェイムズの共通項を探る」

休憩 11:30～12:30

理事・評議員会 11:35～12:30 3号館 3455

午後の部

清水博賞・斉藤眞賞・中原伸之賞授賞式 12:35～12:55 3号館 3115 ※ 対面のみ

第一部 Keynote Speeches 13:00～13:50 3号館 3115 ※ ウェビナー配信あり

Chair: Takuya SASAKI 佐々木卓也 (Vice-President, JAAS/Rikkyo University 立教大学)

Keynote Speakers:

Yoshiko UZAWA 宇沢美子 (President, JAAS/Keio University 慶応義塾大学)

“Asian Theater as Techne: *The Yellow Jacket* (1912) and Its Mixed Legacy of ‘Chinese’ Stagecraft in America”

Seong-Ho LIM (President, ASAK/Kyung Hee University 慶熙大学)

“What Kind of ‘America’ Mattered in the State-Building of South Korea? The ‘Tudor’ Polity vs. the ‘Progressive’ State”

第二部 シンポジウム「コロナパンデミックと人種」 14:00～17:45 3号館 3115 ※ 対面のみ

司会・討論者: 佐藤千登勢 (筑波大学)

報告: 南川文里 (同志社大学)

「新型コロナ危機における多文化主義——1990年代「文化戦争」から考える」

今野裕子（亜細亜大学）

「伝染病とアジア人の身体——20世紀転換期のアメリカ公衆衛生と日本人移民」

野口久美子（明治学院大学）

「コロナ禍の先住民コミュニティ——「不可視化」の暴力といかに戦うか」

森山貴仁（南山大学）

「黒いトランプリスト——マイノリティ保守と多人種化する白人性」

第2日 2022年6月5日(日) ※ ウェビナー配信あり

午前の部

部会・ワークショップ 9:00～11:45

【ワークショップA Queer Futurities: Utopias, Dystopias and Disruptive Transnationalism: Gender, Environment and Religion I】 F号館 ホール

Chair: Kazuto OSHIO 小塩和人（Sophia University 上智大学）

Commentator: Masami YUKI 結城正美（Aoyama Gakuin University 青山学院大学）

Speakers:

Jason RUIZ (ASA/University of Notre Dame)

“Say Goodnight to the Bad Guy: *Scarface*, *Miami Vice*, and South Florida in War-on-Drugs Popular Culture”

Erik LOOMIS (OAH/University of Rhode Island)

“Oregonians and Indian Gurus: The Controversy over Rajneeshpuram Within the Context of the Pacific Northwest’s Political and Economic Transformation in the 1980s”

Koji ITO 伊藤孝治 (Osaka University 大阪大学)

“The Making of a Sockeye Salmon-Centered Ecosystem in Alaska’s Bristol Bay and the Birth of an American Ichthyological Empire during the Interwar Period”

【部会A 「帝国としてのアメリカ」再編と移民／難民】 F号館 F602

司会： 大津留(北川)智恵子（関西大学）

討論者： 貴堂嘉之（一橋大学）

報告者：

佐原彩子（共立女子大学）

「難民収容レジームの起源」

上英明（東京大学）

「移民危機はなぜ起きるのか？——冷戦後の米・キューバ移民交渉と「予告された危機」

錦田愛子（慶応義塾大学）

「アメリカの中東系移民／難民の受け入れと「対テロ」戦争」

【 部会 B アメリカ宗教と対立・融和・変革 】 3号館 3115

司会： 山本貴裕（広島経済大学）

討論者： 増井志津代（上智大学）

報告者：

佐藤清子（東京大学）

「アメリカの無宗教を考える——新たな最大少数派(非)宗教集団」

石黒安里（同志社大学）

「アメリカ・ユダヤ人の信仰と政治的分極化——近年の動向を中心に」

藤本龍児（帝京大学）

「現代アメリカ政治と宗教——「ポスト世俗化」社会」

休憩 11:45～12:50

新理事会 12:10～12:40 3号館 3114

総会 12:50～13:20 3号館 3114

午後の部

部会・ワークショップ 13:30～16:15

【 ワークショップ B Queer Futurities: Utopias, Dystopias and Disruptive Transnationalism: Gender, Environment and Religion II 】 F号館 ホール

Chair: Myles CHILTON (Nihon University 日本大学)

Commentator: Nathaniel PRESTON (Ritsumeikan University 立命館大学)

Speakers:

Martin F. MANALANSAN, IV (ASA/University of Minnesota, Twin Cities)

“Atopias: Queering Mess, Mesh and Migrancy”

Farina Noelani KING (OAH/Northeastern State University)

“‘Art Pulled Me Out’: Diné Expressions of Hózhó at Intermountain Boarding School, 1950-1984”

Hiromi OCHI 越智博美 (Senshu University 専修大学)

“Resisting Normative Gender and Normative Aging: Rethinking Temporality in Michael Cunningham’s *The Hours*”

【 部会C 文学と歴史が交わる場所——学際性をめぐる対話 】 F号館 F602

司会：佐久間みかよ（学習院女子大学）

報告者：

白川恵子（同志社大学）

「ナット・ターナーの場合——歴史記述と文学表象との「厄介な」不／可分性」

竹谷悦子（筑波大学）

「日本を閉ざす鉄のカーテン」——航空アーカイヴとアメリカ文学史の交錯」

討論者

久野愛（東京大学）

丸山雄生（東海大学）

【 部会D 差異とイメージ——マイノリティ表象の現在 】 3号館 3115

司会：生井英考（立教大学）

討論者：江崎聡子（聖学院大学）

報告者：

竹沢泰子（京都大学）

「アメリカ合衆国における人種的ステレオタイプの過去と現在」

鎌田遵（亜細亜大学）

「北米先住民の表象——イメージと現実のはざままで」

中村理香（成城大学）

「「凌辱された身体」と人種・ジェンダー・表象のポリティクス——アジア系アメリカ／ディアスポラと在米「慰安婦」碑」

杉山直子（日本女子大学）

「「合衆国初の黒人大統領」のもたらしたもの——「黒人」表象の意味とその変遷」

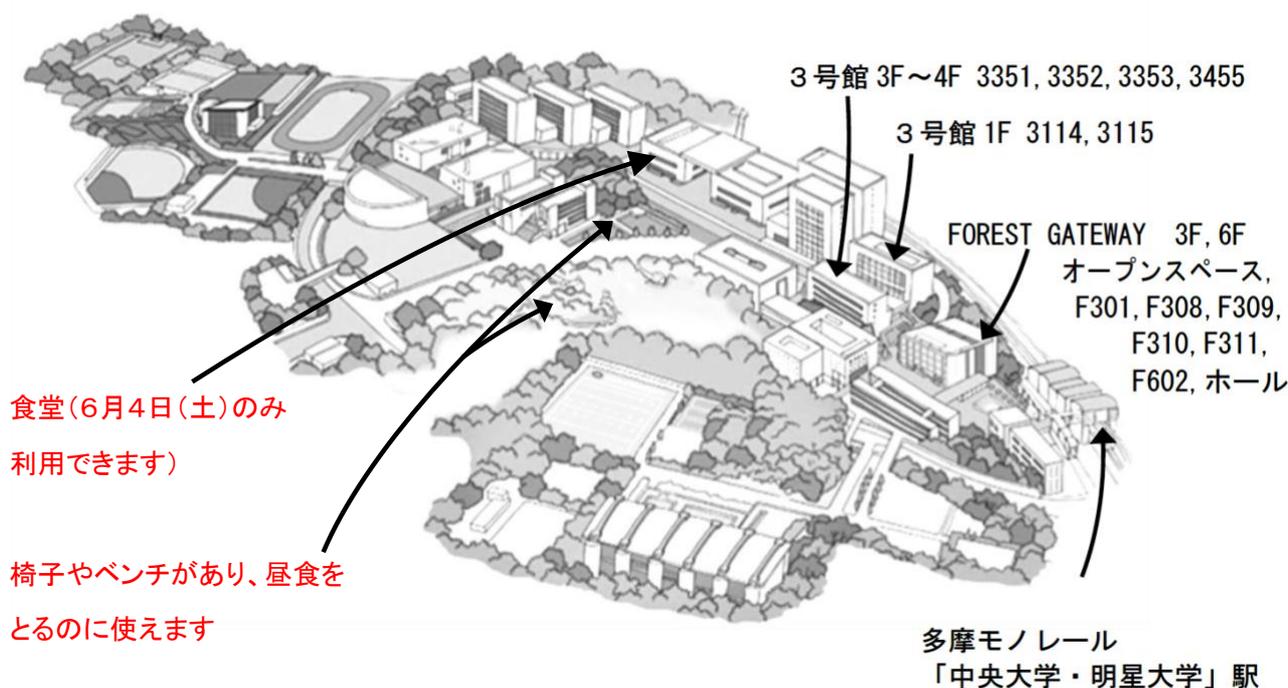
4. 注意事項

- 1) 今大会は対面で開催いたしますが、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の状況に関する主催校の方針によっては、オンライン開催に切り替える可能性もございます。その際は、学会公式ウェブサイトおよび学会員メーリングリストにて、詳細をお知らせいたします。
- 2) 大会参加登録は、ウェブサイトの大会参加登録ページ上(こちら)で、必ず**2022年5月22日(日)**までにお願いいたします。参加登録ページのURLは、アメリカ学会会員用メーリングリストでも配信いたします。
- 3) 大会期間中、キャンパス内の食堂は**土曜日(6月4日)の11~14時のみ使用できます**。下の地図を参照してください。日曜日(6月5日)は食堂を使用できません。飲食店はキャンパスから離れているので、日曜日は昼食を各自ご持参ください。多摩モノレール「中央大学・明星大学」駅にはコンビニエンスストアがございます。
- 4) 今大会の分科会は、オンラインで開催されます。分科会によって開催される日時は異なっております。分科会の詳細は、別にあらためてご連絡いたします。
- 5) 今大会は懇親会を開催いたしませんので、ご了承ください。

5. 会場案内 (F号館はFOREST GATEビルを意味します)

| | |
|--------------|--------------------------|
| 受付 | F号館 3階 オープンスペース |
| 大会本部・役員控室 | F号館 3階 F301 |
| 会員控室・外国ゲスト控室 | F号館 3階 F310, F311 |
| 賛助会員(書店)ブース | F会館 3階 F308, F309 |

中央大学多摩キャンパスマップ(<https://www.chuo-u.ac.jp/campusmap/tama/>)



第56回年次大会 分科会のご案内

※ 本大会ではすべてオンラインで開催されます。ミーティング情報は後日、参加者に配信されます。

1. 「アメリカ政治」 6月3日(金) 19:00～20:30

責任者: 宮田智之(帝京大学) tomoyukimiyata アットマーク main.teikyo-u.ac.jp

報告1: 相川裕亮(広島大学) 「福音派はアメリカの政治制度をどのように理解しているか」

報告2: 杉野綾子(武蔵野大学) 「金融規制を通じた気候変動対策——規則制定に対する大統領の関与の観点から」

報告3: 舟津奈緒子(日本国際問題研究所) 「バイデン外交の特徴と課題」

本年度のアメリカ政治分科会は、3名の会員より、アメリカ政治の各分野における最新の研究成果を報告いただく。相川会員は、保守的なキリスト教徒の党派政治への関わりを、1970年代に福音派の政治動員を試みたフランシス・シェーファーの建国の父祖理解に注目しつつ分析する。杉野会員は、オバマ、バイデン両政権が金融機関への監督を通じて化石燃料産業への資金流入制限を図る中、いわゆる化石燃料投資撤退(ダイベストメント)の政策方針がどのように受容され、どのような政治論争を引き起こしているのか、特に大統領権限に注目して明らかにする。舟津会員は、過去のアメリカ外交との比較やアメリカ外交の潮流との関係を通じて、バイデン外交の特徴を浮き彫りにするとともに、国内の党派対立や党内対立に象徴されるバイデン外交を推進する上での課題について考察する。

2. 「アメリカ国際関係史」 6月3日(金) 17:30～19:00

責任者: 島村直幸(杏林大学) naoyuki_shimamura アットマーク hotmail.com

報告: 吉留公太(神奈川大学)

批評: 佐々木卓也(立教大学)

合評会: 吉留公太『ドイツ統一とアメリカ外交』(晃洋書房、2021年)」

吉留公太『ドイツ統一とアメリカ外交』(晃洋書房、2021年)の合評会を行う。同書は、近年公開されたアメリカや各国の一次資料と国際的な研究動向を踏まえて、ジョージ・H・W・ブッシュ政権の対ソ・対ヨーロッパ政策を解明し、東西ドイツ、アメリカ、ソ連、イギリス、フランスが行ったドイツ統一交渉の経緯を詳細に分析することによって、ヨーロッパ地域における冷戦の終結過程の全体像に迫っている。冷戦の開始とアメリカ外交の研究で知られる、アメリカ外交史研究の第一人者の佐々木卓也会員に批評を行っていただく。

3. 「日米関係」 6月4日(土) 19:30～21:10

責任者: 末次俊之(松蔭大学) suetoshi007 アットマーク gmail.com

報告1: 村岡 敬明(明治大学) 「西銘県政における沖縄の公共政策——西銘知事の米軍基地問題への対応を中心として」

報告2: 東江 日出郎(東北公益文科大学) 「米中冷戦とドゥテルテのフィリピン外交」

今回の分科会では、まず、沖縄米軍基地に関連して、西銘順治沖縄県知事(1978年12月10日～1990年12

月 9 日)が打ち出した公共政策の中から、西銘知事が 2 度にわたる訪米で米国政府高官に直接要請した水質汚染につながる福地ダムでの演習の廃止、海兵隊の演習場内での実弾射撃の廃止、および普天間飛行場の返還などの政策の分析を報告する。また、返還された 2 か所の基地跡地(ハンビー飛行場跡地、牧港補給基地の住宅跡地)の有効利用についても検討する。

次に、多数の米軍基地が存在するフィリピンについて、本報告では、ドゥテルテ政権の時期に展開されたフィリピン外交を、オバマ、トランプ、バイデンという 3 人の米国大統領の交代の時期に合わせて区分し、それぞれの時期の特徴を捉え、最後にドゥテルテ政権の外交を総括する。さらに一般に「自立外交」と言われることの多いドゥテルテのフィリピン外交は、本当に自立的なのか、ということも考察する。

4. 「経済・経済史」 6月3日(金) 19:00~20:30

責任者: 名和洋人(名城大学) nawa アットマーク meijo-u.ac.jp

報告: 手塚 沙織(南山大学)「移民政策における新興勢力としての米 IT 産業」

GAF A と呼称される米巨大 IT 企業の4社、グーグル、アップル、フェイスブック、アマゾンの市場支配力が、個人データの利用から格差拡大まで、社会のあらゆる側面で問題視されている。こういった米巨大 IT 企業の影響力は経済から政治にまで幅広いが、その中でも移民政策をめぐる政治における影響力には、比較的関心が集まってこなかった。だが、GAF A を含めた米 IT 企業の多くが、海外出身のエンジニアといった高度外国人材を多数雇用しており、外国人労働者に対する受入政策である移民政策は、米 IT 企業の人材戦略に影響するため、米 IT 企業がその政治的活動を活発化させるのは当然と言えよう。しかし、米 IT 企業はいつから、そしてどのように移民政策をめぐる政治に本格的に関わり始めたのだろうか。また、それは既存のアクターとはどういった類似点や相違点があるのだろうか。本報告では、移民政策をめぐる政治における新興勢力としての米 IT 産業の影響力を考察する。

5. 「アジア系アメリカ研究」 6月2日(木) 18:00~19:30

責任者: 野崎京子(京都産業大学) kyoko.nozaki.103039 アットマーク gmail.com

報告: 山中美潮(上智大学)「20 世紀初頭のアメリカ南部・メキシコ湾岸地方と日本人移住——稲作と人種関係」

本報告では、20 世紀転換期にアメリカ南部・メキシコ湾岸地方に移住した日本人稲作従事者の姿を通じて、アメリカ・日本の帝国拡大と日本人の人種観を考察する。20 世紀初頭、アメリカ南部は稲作を媒介として、アメリカと日本の帝國的野心を結びつけた接合点の一つであった。南北戦争以降メキシコ湾岸部では北部・中西部資本の影響で稲作の近代化が進められたが、同時に世紀転換期には稲田開発のため日本人移住を一時的に奨励していた。本報告は、こうしたアメリカ側の動きに対し、日本人移民が当該地方を稲作処女地と見なし土地所有者として移住したこと、そして日本から持ち込まれた種籾栽培の成功とジム・クロー社会の人種規範が、日本人の植民としての帝国観と人種観の形成に影響を及ぼしたことを解明したい。具体的にはテキサス州ウェブスターに移住し現地日本人の精神的支柱であった西原清東の例を中心に報告を行う。

6. 「アメリカ女性史・ジェンダー研究」 6月4日(土) 19:30～21:00

責任者: 鈴木周太郎(鶴見大学) shutarosuzuki アットマーク me.com

報告: 弓削尚子(早稲田大学) 兼子歩(明治大学) 小檜山レイ(東京女子大学)

合評会: 弓削尚子著『はじめての西洋ジェンダー史——家族史からグローバル・ヒストリーまで』(山川出版社、2021年)

弓削尚子氏の著書『はじめての西洋ジェンダー史——家族史からグローバル・ヒストリーまで』についての合評会をおこなう。家族史、女性史、ジェンダー史、身体史、男性史、軍隊の歴史、グローバル・ヒストリーといったこれまでの歴史学のアプローチの変化についてたどりながら、西洋の歴史をジェンダーの視点から考察したこの本について、まずは弓削氏より紹介していただく。その後、兼子歩氏と小檜山レイ氏より書評コメントを発表し、弓削氏による応答後、フロアと質疑応答およびディスカッションをおこなう。アメリカ学会の年次大会においてこの本の合評会をおこなうことは大変意義のあることと考えるので、広範な関心を持つ会員による活発な議論を期待したい。

7. 「アメリカ先住民研究」 6月3日(金) 19:00～20:30

責任者: 佐藤円(大妻女子大学) mdsato アットマーク otsuma.ac.jp

報告: フェリーナ・ネオラニ・キング(ノースイスタン州立大学)「世代を超えたディネ女性の施療と COVID-19」

While media, stories, and cries of my people and community show the rampage of Dikos Nstaaígíí-19, the coronavirus monster, many have asked why the virus is prevalent in the Navajo Nation. This presentation will address that question by examining the intertwined histories of colonialism and disease that have plagued Navajos. In recent years, three particular diseases of diabetes, cancer, and COVID-19 have threatened and claimed many Diné lives, which this talk will contextualize and assess. Most importantly, the presenter, Dr. Farina King (who is a descendant of Diné healers), will acknowledge Diné women healers and warriors of different generations. According to Diné ancestral teachings, warriors are the ones who care for the sick, feed the hungry, bring wood for the fires, and unite the people. Diné have passed on teachings of Si'ah Naaghái Bik'eh Hózhó, simply translated as “Walk in Beauty” or “live to old age in beauty.” Healing is an essential part of this never-ending journey and cycle through generations and time, as Diné constantly seek to restore balance and harmony—hózhó—in all things within and around them.

※ 注意事項: 報告者の来日が新型コロナウイルス感染症等の影響により見送りになる場合には、本分科会は中止となります。

8. 「初期アメリカ」 6月3日(金) 19:00～20:30

責任者: 笠井俊和(群馬県立女子大学) toshi_ks アットマーク mail.gpwu.ac.jp

報告: 遠藤寛文(防衛大学校)「欧州帝国間抗争の境界域としての北米辺境——1812年戦争期の西フロリダ併合政策(1810-1813年)を中心に」

コメンテーター: 森丈夫(福岡大学)

世界史の教科書において、ルイジアナ購入(1803年)はアメリカが幸運にも広大な土地を格安で入手し、19世紀西漸運動の礎を築いた契機と説明される。しかし、はたして同時代人はこのような楽観的な世界観を共有していただろうか。広大な領土が簡単に譲渡されてしまう不運な事態はアメリカに対しても起こりえたのではないか。本報告では、合衆国初期の辺境に欧州帝国間抗争の境界域としての歴史を読み込む近年の研究視角を参照しつつ、1812年戦争期における西フロリダ併合政策(1810-1813年)の背景と実情を考察する。当時のアメリカ社会では連邦分割計画への恐怖や辺境住民に対する不信感が高まっていたが、現地では主流社会とは異なる境界域特有の慣習や帰属意識が共有されていた。本報告では、米西現地官吏の交渉過程に着目し、西フロリダ問題をアメリカ膨張主義の起源としてではなく、北米秩序の再編過程の表れとして捉え直すことを試みる。

9. 「文化・芸術史」 6月3日(金) 19:00~20:30

責任者: 小林剛(関西大学) go アットマーク kansai-u.ac.jp

報告: 山田優理(カリフォルニア大学ロサンゼルス校)「「虚ろなアメリカの魂」——1950年代シカゴの記録としての映画『クライ・オブ・ジャズ』(1959)」

作曲家エド・ブランドを中心した独立系映画製作会社が手掛けた短編映画『クライ・オブ・ジャズ』は、政治的な内容や拙い演技の所為もあり、1959年公開当時の商業的成功は限られたものであった。ジャズの音楽的構造と米国における黒人の社会的地位の間に共通項を見出そうとする本作品は、近年になって再評価が進み、2010年にはその文化的・歴史的・芸術的価値が認められ、国立映画登録簿(National Film Registry)への追加が決定された。本発表では、作品中に描かれる人種やジェンダーを軸とした人間関係に着目し、1950年代のシカゴの社会状況に鑑みることで、『クライ・オブ・ジャズ』の歴史的記録としての価値を模索する。とりわけ、人種統合が進まないハイド・パーク地区に黒人として暮らしたブランド自身の経験を強調することで、公民権運動の主流言説とは異なるリベラル批判としての本作品の可能性を論じる。

10. 「アメリカ社会と人種」 6月3日(金) 19:00~21:00

責任者: 戸田山祐(大妻女子大学) todayama アットマーク otsuma.ac.jp

報告: 山本航平(同志社大学)「連帯と交渉——20世紀前半キューバ・アメリカ合衆国間におけるアフリカ系の人的ネットワーク」

周知のとおり、キューバ第二次独立戦争(1895-98年)に端を発する「米西戦争」の結果として、キューバは1902年までアメリカ合衆国(以下、米国)の軍政下に置かれた。キューバ人を有色人種とみなす米国軍政府にとって、キューバ統治とは「劣った人種」をいかにあつかうかという問題と不可分であり、米国が持ち込んだ「科学的」な人種理論は軍政終了後もキューバで残存することとなった。かかる帝国主義的な構造下において、アフリカにルーツを持つキューバ人と米国人は、メキシコ湾を挟んだトランスナショナルな人種間連帯を模索した。本報告では、キューバにおける黒人奴隷制や人種分離・差別の様相を確認したのち、20世紀初頭のアフロキューバ人(アフリカ系キューバ人)がアラバマ州のタスキーギ師範・産業学院にいかなるまなざしを向け、どのように関わったのかを検討する。その後のガーヴェイズムの進展やハーレム・ルネサンスの高揚へのアフロキューバ人の貢献も射程におさめて議論を進めることで、キューバと米国のアフリカ系の人びとが構築した汎アメリカ的な社会

的結合関係、あるいは人的ネットワークの一側面を提示したい。